

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 7 日現在

機関番号：32616

研究種目：基盤研究(A) (海外学術調査)

研究期間：2011～2015

課題番号：23251013

研究課題名(和文)イラン国立博物館所蔵粘土板文書の調査・研究

研究課題名(英文)A Study of Cuneiform Sources housed at the National Museum of Iran

研究代表者

前川 和也 (Maekawa, Kazuya)

国土館大学・イラク古代文化研究所・共同研究員

研究者番号：60027547

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 24,200,000円

研究成果の概要(和文)：本プロジェクトはイラン国立博物館所有の未刊楔形文字資料(主としてレンガ碑文およびテル・マルヤン(古代アンシャン)出土粘土板)の調査、解析を目的とした。そのさい博物館における資料分類、収蔵、展示、啓蒙活動、部外研究者の研究に利するため、全資料の3Dモデル化をも目指した。班員は2011年より博物館においてこの作業を進め、ほぼ全作業を終えた。レンガ碑文の大部分は、すでに英文にて2012年、科研成果として公表し、さらに2016年3月には科研報告書として、これらの問題をめぐって2014年に我々が開催した国際シンポジウム「古代イラン」が科研報告報告書として公表されている。

研究成果の概要(英文)：This project has been organized for a comprehensive study of the unpublished cuneiform texts written in Elamite, Sumerian and Akkadian (brick inscriptions and records from Tell Malyan (ancient Anshan) housed at the National Museum of Iran. 3D modelling was made for those documents for conveniences of classification and public education and for easier assess of the sources to be made by specialists not working for the museum. Our work of research and 3D modelling, which started in 2011 under the generous permission of the National Museum of Iran, have almost been completed by 2016. We have already offered the research achievements of the Grants-in-Aids on the Brick Inscriptions in the National Museum of Iran (ed. E. Matsushima and H. Teramura; 2012) and Ancient Iran: Proceedings of the International Colloquium held at Kyoto University, December 6-7, 2014 [2016]. They will soon appear in the book-form. We are also studying the Malyan tablets and others for their earliest publication.

研究分野：古代メソポタミア・イラン研究

キーワード：イラン国立博物館 楔形文字文書 エラム語 アッカド語 シュメール語 テル・マルヤン 3Dモデリング

1. 研究開始当初の背景

本プロジェクトが開始されたのは 2011 年 4 月であるが、そのきっかけとなったのは、2007 年、総合地球環境学研究所(京都)において実施されていた古代インダス文明プロジェクトの研究リーダー長田俊樹教授がイラン国立博物館を訪問し、館長ダリューシュ・アクバルザデ氏と面会したさい、氏より日本チームによる博物館所蔵の未刊楔形文字資料調査を打診されたことにはじまる。これをうけて、2008 年夏、松島英子(法政大学)また翌 2009 年には松島英子、森若葉(総合地球環境学研究所)、春田晴郎(東海大学)がイラン国立博物館の資料予備調査を実施している。この 2 調査をつうじて、我々にたいしてイラン国立博物館側は好意ある対応を行ってくれたが、我々も、これによって従来一般的に実施されてきた調査方法、すなわち文書の写真撮影、文書解読、アルファベット化、文書の出土地、時代確定、資料整理を手作業で行う以外に、全資料を 3D モデリング化することの有効性が確認された。楔形文字は、粘土板やレンガ表面に彫り込まれた楔形状諸ラインによって構成されているのであるから、書板が摩耗してしまった楔形文字の解読にとって、単なる 2 次元写真によるよりも、3D モデルがはるかに有効であることが、我々が国内で実施した諸実験によっても証明することができたからである。また 3D モデル化された資料は、博物館による公開啓蒙活動にとってもきわめて大きな力となることは、当時世界の博物館にとって共有されはじめていた認識でもあった。

我々のほぼすべてが京都大学と深く関係しているため、またイラン側からの要請もあって、京都大学文学研究科とイラン国立博物館とのあいだに締結されるべき MOU にもとづいて、我々の仕事を進行させることを決意した。MOU は、2011 年 3 月、京都大学文学研究科長佐藤昭裕教授とイラン国立博物館長アクバルザデ氏とのあいだで締結された。また我々はトヨタ財団より我々のイラン国立博物館での未刊資料を 3D モデル化することの補助を受け(2010、11 月 2012、10 月)、テヘランでの仕事を、すでに 2011 年より本格的に開始している。我々のプロジェクトは、このような前史をもっている。

2. 研究の目的

本研究は、イラン国立博物館が所蔵するエラム語、シュメール語、アッカド語楔形文字資料、とりわけレンガ碑文(前 3 千年紀末 前 2 千年紀中葉、スシュ(古代スサ)およびマルヤン(古代アンシャン)出土)および前 2 千年紀中葉マルヤン出土行政文書を調査し、全文書を写真撮影し、博物館の文書整理に供

するとともに、重要なテキストを 3D モデル化し、さらに個別テキストの翻字、翻訳、研究を行い、成果を広く発信することであった。

3. 研究の方法

すでに述べたように、本プロジェクトはイラン国立博物館蔵未刊レンガ碑文およびマルヤン遺跡(古代名アンシャン)出土粘土板文書(大部分は前 2 千年紀中葉エラム語行政記録)の整理、カタログ化、公刊を目的としていた。これらの資料はすべて断片である。まとりわけアンシャン粘土板は、縦、横ともわずか数センチのサイズしかもたない。このため、イラン国立博物館での我々の作業は、すべてのレンガ碑文、粘土板テキスト断片をさまざまな角度から撮影し、また重要と思われる資料を 3D モデル化するための準備作業を実施した。これらの作業はプロジェクト 1 - 3 年、主として我々の長期滞在が可能な夏季に実施された。また同時に博物館では、小粘土板断片の接合作業も可能なかぎり実施している。未刊レンガ碑文、粘土板の整理、カタログ化については、博物館に保存されている手書きラベル等を精査し、博物館蔵アンシャン既刊文書研究(M. W. Stolper, *Texts from Tall-i Malyan*, 1984)での記述、またレンガ碑文にかんしては、仏隊のスサ、チョガ・ザンビル発掘によりパリに将来されたレンガ諸碑文の諸出版(MDP シリーズでの公刊)、また F. Malbran-Labat, *Les Inscriptions Royales de Susa*, 1995 や、M. Lambert, E. Reiner らの研究と照合しつつ、カタログ化を進めた。

4. 研究成果

博物館レンガ碑文にかんしては、すでにそれらの大部分を、松島英子および寺村裕史が報告書 E. Matsushima and H. Teramura (eds.), *Brick Inscriptions in the National Museum of Iran (Ancient Text Sources in the National Museum of Iran, Vol. 1, 2012)*として公表している。{なおこの報告書では、寺村らによって、博物館での撮影および 3D モデル化の技術・技法が詳細に紹介されている。}またマルヤン遺跡から出土したレンガ碑文断片群にかんしては、松島英子は、これらが前 12 世紀エラム王フテルドゥシュ・インシュシナクの同 1 碑文を構成していることを見出し、さらにこの碑文がスサ出土だけでなく、マルヤン(アンシャン)で発見されていることの政治的意味を論じることができた。松島のこの成果は、2014 年に我々が開催した国際シンポジウム *Ancient Iran: New Perspectives from Archaeology and Cuneiform Studies*(京都大学)で発表された。なおこのシンポジウムは 2016 年に報告書として公表されている(*Ancient Text Sources in the National Museum of Iran, Vol. 2,*

2016)。レンカ碑文以外の王碑文として森若葉は、シュメール・ウル第3王朝王の碑文断片を公表することができた。森はこれを王朝初代王ウル・ナンマの王碑文と同定することができた。博物館記録には、イラン・ファルス州で発見されたとの情報のみがのこされている。すでにこの王のイラン経略については、メソポタミア出土碑文から知られているが、イランにおいてじっさいの碑文がはじめて発見されたことになる。また森は、未刊アンシャン行政文書のなかに、おそらくウル第3王朝時代にシュメール語で書かれた行政文書を発見し、公表している。アンシャンはウル第3王朝2代王のときウル王朝に攻撃され、王朝のファルス地方支配の拠点とされたことは、シュメール側の資料によってよく知られていたが、今回アンシャン自体でシュメール語行政記録がはじめて発見され、その意義はおおきい。森若葉の成果も 京都国際シンポジウムで報告され(2014年)、2016年には報告書として公表された。なおこの文書は表面の摩耗が激しく、博物館において、のこされた文字サインを肉眼で読み取ることはけっして容易ではなかったが、この粘土板を3Dモデル化することによって、文字解読がおおきく進展したことを強調しておきたい。

2014年12月に我々が京都大学ユーラシア文化研究センターにおいて開催した国際シンポジウム Ancient Iran: New Perspectives from Archaeology and Cuneiform Studies は、我々のイラン国立博物館楔形文字資料の研究成果を、より広い場において検証しようとする試みでもあった。このシンポジウムには、本プロジェクト班員の諸報告の他に、イラン人考古学研究者 S. Piran, Sh. Farokhnia の報告にくわえ、P. Steinkeller (前3千年紀のイラン・メソポタミア歴史地理学)、K. De Graef (前3千年紀初頭イラン)、F. Malbran-Labat (エラム語)、岡田保良(チョガ・ザンビル遺跡保全計画)、渡井葉子(前1千年紀のパピロニアとスサ)、辻田明子(スサ出土シュメール語神名リスト)の報告を得ることができた。じっさい、我々はこのシンポジウムにおけるイラン国立博物館の粘土板資料を直接あつかわない諸報告も、イラン古代史の展開にとってすこぶる重要な寄与をなしたと自負している。たとえば Malbran-Labat のエラム語文法提要は、難解なエラム語解読にとって、新地平を開くものであったし、前川和也による、ウル第3王朝時代スサにおけるシュメール・ラガシュ交渉にかんする報告は、ラガシュによる大規模なスサ・農業プランテーション経営という従来まったく知られていなかった史実発見という大成果をも生み出すこととなった。

なお、松島・寺村によるレンガ碑文カタログ(2012)および京都国際シンポジウム報告(2016)は、あらためて近く公刊の予定である。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)
春田晴郎 「スーサ～ペルシア間の山岳ルートについての検討」 『第22回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』 第22号. 2015. 1-5.

Matsushima, E. “*hirtu* and *kallatu* as titles of wife, Woman who played the role of interceder: Part 2”, blog REFEMA 2. 2013. 1-5. <http://refema.hypotheses.org/32>.

Matsushima, E. “Woman who Played the Role of Interceder: Part 1”, blog REFEMA 1. 2013. 1-4. <http://refema.hypotheses.org/32>.

森若葉 「イラン国立博物館所蔵マルヤン出土資料文献調査経過報告」 『西南アジア研究』 76巻、2012、32-41.

渡邊俊祐・寺村裕史・津村宏臣 「3次元レーザーキャナの精度・確度検証 -イラン国立博物館所蔵粘土板資料を対象として-」 日本文化財科学会 第29回大会講演論文集、29巻、2012、106-107.

川瀬豊子 「アカイメネス朝期王室管轄下の女性毛織物労働者」, 「アカイメネス朝の街道宿駅での食糧・馬糧供給システム」 『世界史史料』 「古代のオリエントと地中海世界」 1巻、2012、325-327.

[学会発表](計19件)
Maekawa, K. “Seasonality of Collective Labor in the Third Millennium Southern Babylonia: Some Aspects of Calendars and work Organization in third Millennium BC Mesopotamia.” The 2nd Susa and Elam Conference. Mar. 23, 2016. Tsukuba University (Tsukuba, Ibaraki).

Maekawa, K. “Agricultural Production of the Ur III Girsu Institution at Susa.” The 2nd Susa and Elam Conference. Jul. 8, 2015. Louvain Catholic University (Louvain-la-Neuve, Belgium).

前川和也 「ウル第3王朝時代におけるスサとラガシュ」 第58回シュメール研究会. 2015年6月28日. 京都大学(京都府京都市).

Matsushima, E. “Women in Elamite Royal Inscriptions.” The Role of Women in Work

and Society in the Ancient Near East. Dec. 6-7, 2014. Universite Paris-Ouest Nanterre La Defence (Paris, France).

Haruta, S. "Historical Importance of the Izeh Plain: Viewed from Later Periods." *Ancient Iran: New Perspectives from Archaeology and Cuneiform Studies*. Center for Eurasian Cultural Studies. Dec. 6-7, 2014. Kyoto University (Kyoto).

Kawase, T. "Masons and Quarries in the Persepolis Royal Economy." *Ancient Iran: New Perspectives from Archaeology and Cuneiform Studies*. Center for Eurasian Cultural Studies. Dec. 6-7, 2014. Kyoto University (Kyoto).

Matsushima, E. "A Royal Inscription of Huteldush- Inshushinak from Tall-i Malyan." *Ancient Iran: New Perspectives from Archaeology and Cuneiform Studies*. Center for Eurasian Cultural Studies. Dec. 6-7, 2014. Kyoto University (Kyoto).

Mori, W. and Maekawa, K. "A Sumerian Royal Inscription and a Sumerian Administrative Record from Ur III Anshan." *Ancient Iran: New Perspectives from Archaeology and Cuneiform Studies*. Center for Eurasian Cultural Studies. Dec. 6-7, 2014. Kyoto University (Kyoto).

Watanabe, Sh. and Teramura, H. "3D Modelling of the Cuneiform Tablets and the Bricks possessed by the National Museum of Iran." *Ancient Iran: New Perspectives from Archaeology and Cuneiform Studies*. Center for Eurasian Cultural Studies. Dec. 6-7, 2014. Kyoto University (Kyoto).

Maekawa, K. 'Seeds, Yield and Area Units in Sumerian Agriculture: Recent Archaeological Research in Kurdistan-Iraq.' Oct. 26, 2013. Garden Palace Hotel, Kyoto (Kyoto).

松島英子「メソポタミア社会における女性の一側面：主人公の傍らの女性」2013年6月24日. 中央大学（東京都多摩市）.

Matsushima, E. "*hirtu* and *kallatu* as Titles of Wife, Woman who Played the Role of Interceder: Part 2", blog REFEMA 3rd workshop. Sep. 4, 2013. (Carqueiranne, France).

春田晴郎「パルティア史研究から分かること」2012年度史学研究会大会. 2012年11月2日. 京都大学（京都府京都市）.

森 若葉「イラン国立博物館所蔵マルヤン出土資料について」第54回シュメール研究会. 2012年5月26-27日. 早稲田大学（東京都世田谷区）.

Matsushima, E. "Des vivants aux morts ou la mutation onthologique dans les mythes mesopotamiens." *Mythe, rites et emotions : les funerailles le long de la route de la soie*, Colloque international des 8 et 9 Mars 2013. Mar. 8-9, 2013. Universite; Paris 7 Denis Diderot (Paris, France).

Matsushima, E. "Transformation de l'etre vivant au mort a la Mesopotamie" Pre-session du Colloque international des 8 et 9 Mars 2013: Mythe, rites et funerailles dans les mondes anciens medievaux et en anthropologie, 16 decembre 2012. Dec. 16, Toyo-bunko.

Matsushima, E. "Les femmes en contexte cultuel, Premieres journee d'etudes", les Roles economiques des femmes en Mesopotamie ancienne. Nov. 2-3 2012, Maison de l'Arceologie et de l'Ethnologie Rene Ginouves Nanterre (France).

Matsushima, E. and H. Teramura. "Brick Inscriptions in the National Museum of Iran." *The National Museum of Iran Lectures*. Aug. 12, 2012, National Museum of Iran (Tehran, Iran).

前川和也「古代メソポタミア農業と塩化再考：初仕事とどう向きあうか」ユーラシア文化研究センター第68回定例講演会、2012年06月23日、京都大学大学院文学研究科附属ユーラシア文化研究センター（京都府京都市）.

〔図書〕(計 14 件)

Mori, W. "Two Sumerian Cuneiform Texts from the National Museum of Iran." *Ancient Iran: New Perspectives from Archaeology and Cuneiform Studies. Proceedings of the International Colloquium held at the Center for Eurasian Cultural Studies. Kyoto University, December 6-7, 2014*. Nakanishi Printing Co. 2016. 173-179.

Watanabe, Sh. and Teramura, H. "3D Modelling of the Cuneiform Tablets and the Bricks possessed by the National Museum of Iran." *Ancient Iran: New Perspectives*

from *Archaeology and Cuneiform Studies. Proceedings of the International Colloquium held at the Center for Eurasian Cultural Studies. Kyoto University, December 6-7, 2014.* Nakanishi Printing Co. 2016. 173-179.

Kawase, T. "Masons and Quarries in the Persepolis Royal Economy." *Ancient Iran: New Perspectives from Archaeology and Cuneiform Studies. Proceedings of the International Colloquium held at the Center for Eurasian Cultural Studies. Kyoto University, December 6-7, 2014.* Nakanishi Printing Co. 2016. 27-35.

Haruta, S. "Historical Importance of the Izeh Plain: Viewed from Later Periods." *Ancient Iran: New Perspectives from Archaeology and Cuneiform Studies. Proceedings of the International Colloquium held at the Center for Eurasian Cultural Studies. Kyoto University, December 6-7, 2014.* Nakanishi Printing Co. 2016. 19-26.

Matsushima, E. "A Royal Inscription of Huteldush- Inshushinak from Tall-I Malyan." *Ancient Iran: New Perspectives from Archaeology and Cuneiform Studies. Proceedings of the International Colloquium held at the Center for Eurasian Cultural Studies. Kyoto University, December 6-7, 2014.* Nakanishi Printing Co. 2016. 93-100.

Maekawa, K. "Susa and Girsu-Lagash in the Ur III Period." *Ancient Iran: New Perspectives from Archaeology and Cuneiform Studies. Proceedings of the International Colloquium held at the Center for Eurasian Cultural Studies. Kyoto University, December 6-7, 2014.* Nakanishi Printing Co. 2016. 53-91.

Maekawa, K. (ed.) *Ancient Iran: New Perspectives from Archaeology and Cuneiform Studies. Proceedings of the International Colloquium held at the Center for Eurasian Cultural Studies. Kyoto University, December 6-7, 2014.* Nakanishi Printing Co. 2016. 179.

井谷鋼造 「アラビア文字碑刻銘文資料の精査に基づく西アジア史の研究」『平成24年度～平成26年度科学研究費補助金・基盤研究(C)研究成果報告書』2015. 137.

森 若葉 「シュメール系楔形文字」『世界の文字事典』丸善出版. 2015.38-384.

松島英子(翻訳)『最古の宗教 古代メソポタミア』法政大学出版局. 2013. 388.

松島英子(翻訳)『バビロンとバイブル 古代オリエントの歴史と宗教を語る』法政大学出版局. 2013. 264.

Haruta, S. *The Oxford Handbook of Ancient Iran*, D. T. Potts (ed.). Oxford University Press. 2013. 779-794.

桜井万里子、島田誠、畑守泰子、山田雅道、春田晴郎ほか.『世界史史料 第1巻 『古代のオリエントと地中海世界』岩波書店. 2012. 359

Matsushima, E. and H. Teramura *Brick Inscriptions in the National Museum of Iran : a catalogue, Ancient Text Sources in the National Museum of Iran, vol. 1, Iran-Japan Project of Ancient Texts.* Nakanishi Printing Co. Ltd. 2012. 245.

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

前川和也 (MAEKAWA Kazuya)
国士舘大学イラク古代文化研究所・共同
研究員
研究者番号: 60027547

(2) 研究分担者

川瀬豊子 (KAWASE Toyoko)
大阪樟蔭女子大学学芸学部・教授
研究者番号: 10195092

寺村裕史 (TERAMURA Hirofumi)
国立民族学博物館文化資源研究センター・助教
研究者番号: 10455230

森若葉 (MORI Wakaha)
国土館大学イラク古代文化研究所・共同研究員
研究者番号: 80419457

井谷鋼造 (ITANI Kouzou)
京都大学文学研究科・教授
研究者番号: 60144309

松島英子 (MATSUSHIMA Eiko)
法政大学キャリアデザイン学研究科・教授
研究者番号: 901557305

春田晴郎 (HARUTA Seirou)
東海大学文学部・教授
研究者番号: 90266357

(3)連携研究者

()

研究者番号: